情報処理概論

九州大学 工学部地球環境工学科 講義資料 担当:木村

07 グラフ描画/数値計算ライブラリ



1) グラフ描画ライブラリ matplotlib

Pythonでグラフを描画したり、イメージを表示させたりする際に使用するライブラリ散布図・折れ線グラフ・棒グラフ・円グラフ・等高線図・3Dグラフ表示など

2)数値計算ライブラリ numpy

ベクトルや行列などの計算

グラフ描画ライブラリ matplotlib をインストールする

Windows10の場合:コマンドプロンプト上で
> pip install matplotlib
を実行



インストールがうまく行かない場合、 インターネットを検索して解決してください

```
import matplotlib # グラフ描画ライブラリ matplotlib.use('Agg') # グラフを画面に表示しないで画像ファイルとして保存する import matplotlib.pyplot as plt
```

#----データを定義
num_list_x=[0,3,6,11,12,7, 2,1] # xデータ
num_list_y=[3,4,3, 4, 8,9,10,6] # yデータ

例1 散布図の画像生成

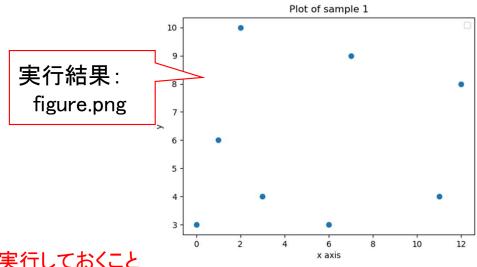
```
#----figure画面figの生成
fig = plt.figure()
#----figure画面へ埋め込まれるデータプロット領域axを生成
ax = fig.add_subplot(1, 1, 1) # fig.add_subplot(行,列,場所)を表します。
#----データプロット領域axにx軸のラベル設定
ax.set_xlabel('x axis')
#----データプロット領域axにy軸のラベル設定
```

#----データプロット領域axにデータの散布図描画 ax.scatter(num_list_x, num_list_y)

ax.set ylabel('y')

#----データプロット領域axに legend と title を表示 ax.legend(loc='best') ax.set_title('Plot of sample 1') #---描画したグラフを png 形式の画像ファイルとして保存 plt.savefig('figure.png') #【注意】予め matplotlib.use('Agg') を実行しておくこと

figure内部に subplotのaxを生成



例2 折れ線グラフの画像生成

前スライドの以下の部分

#----データプロット領域axにデータの散布図描画 ax.scatter(num_list_x, num_list_y)

ここを ax.plot(num_list_x, num_list_y)



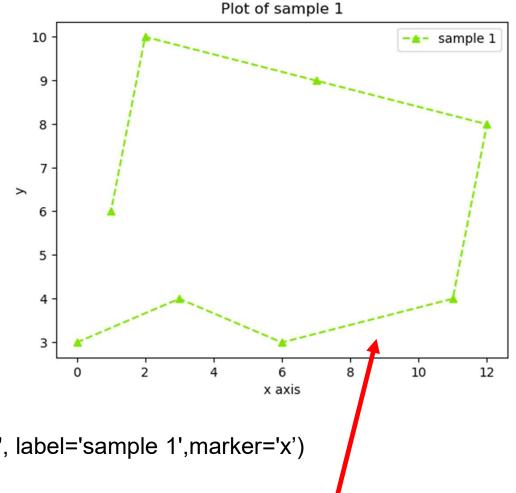
または

ax.plot(num_list_x, num_list_y, linestyle='-', color='b', label='sample 1',marker='x')

または

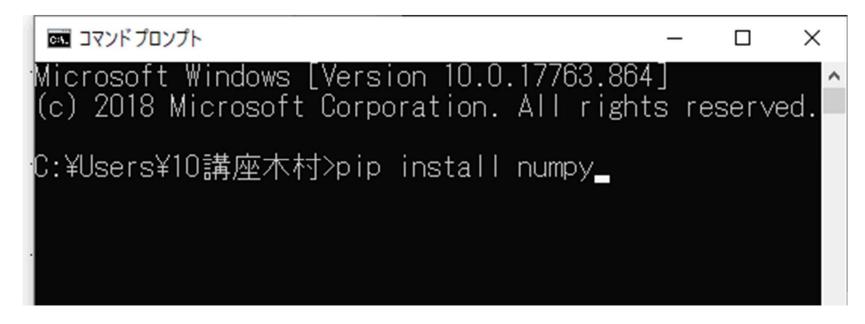
ax.plot(num_list_x, num_list_y, linestyle='--', color=[0.5,0.9,0], label='sample 1',marker='^')

へ変更



数値計算ライブラリ numpy をインストールする

Windows10の場合: コマンドプロンプト上で
> pip install numpy
を実行



pipでインストールしたライブラリをアンインストールする場合は > pip uninstall numpy でOK

```
import numpy as np #----数値計算ライブラリ import matplotlib # グラフ描画ライブラリ matplotlib.use('Agg') # グラフを画面に表示しないで画像ファイルとして保存する import matplotlib.pyplot as plt

x list=[] #数字のリストを作成 最初は空っぽ
```

例3 単純回帰

```
data07 2.txt - TeraPad
                                                               ファイル(F) 編集(E) 検索(S) 表示(V) ウィンドウ(W) ツール(T) ヘルプ(H)
x list=[] #数字のリストを作成 最初は空っぽ
y list=[] #数字のリストを作成 最初は空っぽ
#-----データをファイルから読み込み
                                                                     87. 36718959973692, 54. 07209441025401<sub>4</sub>
with open("data07 2.txt","r") as datafile:
                                                                     16.909655090301246, 2.1037173560637026
                                                                     56. 629787662507894, 48. 69650780139128 4
        while True:
                                                                     38. 52596695279837, 71. 4331228622167↓
                 lineStr = datafile.readline().strip()
                                                                     44. 285862211285554, 11. 512959209310942
                 if lineStr=="":
                                                                     70. 50750195927166, 96. 1974776236433
                          break
                                                                     32.75270623322939, 82.20778727439969
                 # print( lineStr )
                 moji_list=lineStr.split(sep=",") #----文字列lineStrをカンマで分割してリストmoji_jist生成
                 x list.append(float(moji list[0]))
                 y list.append(float(moji list[1]))
```

```
model = np.polyfit(x_list, y_list, 1) modelfunc = np.poly1d( model ) # 回帰モデルから1次式を得る
```

np.polyfit(x,y,n): n次式で2変数の回帰分析

プログラムの続きは次スライド

前スライドのプログラムの続き

#----figure画面figの生成

fig = plt.figure()

#----figure画面へ埋め込まれるデータプロット領域axを生成

ax = fig.add subplot(1, 1, 1) # fig.add subplot(行,列,場所)を表します。

モデル

#----データプロット領域axにx軸のラベル設定 ax.set xlabel('x axis')

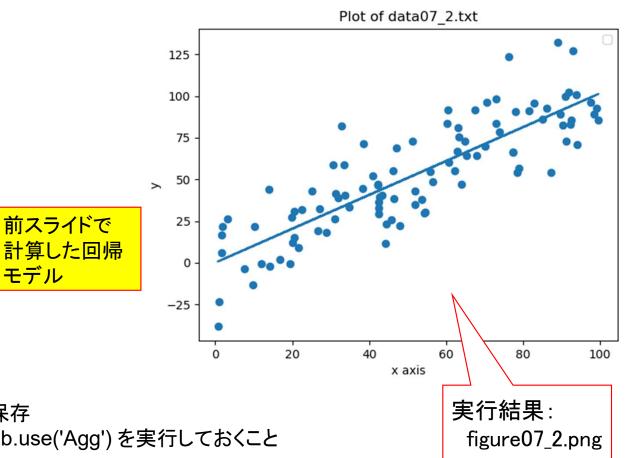
#----データプロット領域axにy軸のラベル設定 ax.set ylabel('y')

#----データプロット領域axにデータの散布図描画 ax.scatter(x list, y list)

#----データプロット領域axにデータのグラフ描画 ax.plot(x list, modelfunc(x list))

#----データプロット領域axに legend と title を表示 ax.legend(loc='best') ax.set_title('Plot of data07_2.txt')

#---描画したグラフを png 形式の画像ファイルとして保存 plt.savefig('figure07_2.png') #【注意】予め matplotlib.use('Agg') を実行しておくこと

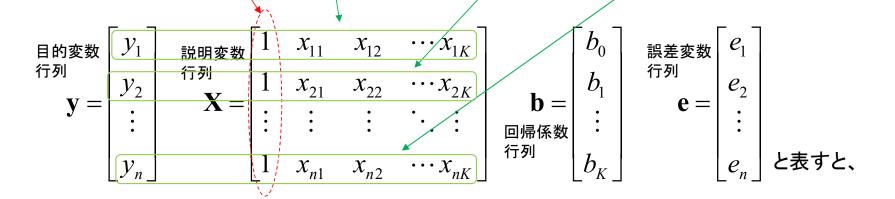


多重回帰

観測値 y を変数 $x_1, x_2, \cdots x_K$ を用いて以下の式で説明する:

$$y = b_0 + b_1 x_1 + b_2 x_2 + \dots + b_K x_K + e$$
確率変動・誤差

このとき、n 個の観測値 $(y_1, x_{11}, x_{12}, \cdots x_{1K}), (y_2, x_{21}, x_{22}, \cdots x_{2K}), (y_n, x_{n1}, x_{n2}, \cdots x_{nK})$ によって係数 $b_0, b_1, b_2, \cdots b_K$ の最小2乗推定量を求める。ここで、



$$y = Xb + e$$

誤差変数行列 \mathbf{e} の平方和 $\left\|\mathbf{e}\right\|^2$ を最小にする \mathbf{b} を求める

線形表現 → 回帰推定(最小2乗法) 回帰モデル

データから回帰モデルを得て何がうれしいか? 回帰モデルによる推定

未知の説明変数 (回帰変数) の値が $(x_{q1}, x_{q2}, \cdots x_{qK})$ で与えられたときの目的変数 (被回帰変数) の値 y_q をデータから推定できる!

$$y_q = b_0 + b_1 x_{q1} + b_2 x_{q2} + \dots + b_K x_{qK}$$
推定値

それでは、 $\mathbf{b} = \begin{bmatrix} b_0 \\ b_1 \\ \vdots \\ b_n \end{bmatrix}$ をデータからどのように求めるか?

誤差eの項はゼロで計算

誤差ベクトル \mathbf{e} の平方和 $\left\|\mathbf{e}\right\|^2$ を最小にする \mathbf{b} を最尤推定値 $\hat{\mathbf{b}}$ と表すと、

単純回帰の場合と同様に、回帰係数の各要素で誤差ベクトルの平方和を偏微分し、 これらが全てゼロとした連立方程式を立てて解くことにより、回帰係数ベクトルは 以下の式で計算される:

$$\hat{\mathbf{b}} = \left(\mathbf{X}^{\mathsf{Trans}}\mathbf{X}\right)^{-1}\mathbf{X}^{\mathsf{Trans}}\mathbf{y}$$

ただし $\mathbf{X}^{\mathsf{Trans}}$ は \mathbf{X} の転置行列を表す。

Xの擬似逆行列 $old X^+$

pseudo-inverse matrix ただしXはm行n列、m > n

 $\left\|\mathbf{e}
ight\|^2$ の最小値 S_e を残差平方和といい、

$$S_e = \mathbf{y}^{\mathsf{Trans}} \left\{ \mathbf{I} - \mathbf{X} \left(\mathbf{X}^{\mathsf{Trans}} \mathbf{X} \right)^{-1} \mathbf{X}^{\mathsf{Trans}} \right\} \mathbf{y}$$

± σ の範囲内 に68.27%の データが存在

で与えられる。
$$\sigma = \sqrt{\frac{S_e}{n}}$$
 より、回帰で推定する場合の精度が分かる

自動車の燃費について以下のようなデータがある。

「クラウン」から「ギャラン Σ 」までのデータを利用して<u>車種「ルーチェ」の10モード走行性能 y を予測</u>するには、どのような計算をしたら良いか?表の数値を使って行列X,Yを作成し、それらを使って具体的な計算方法を説明せよ。

車名	x1	x2	х3	X4	x 5	х6	у
クラウン	1.360	4.778	2.4251	125	17.5	8.8	8.7
マークⅡ	1.245	4.100	2.4082	125	17.5	8.8	9.5
カムリ	1.070	3.214	2.3575	120	17.6	8.7	10.6
ソアラ	1.235	4.100	2.3052	125	17.5	8.8	9.2
セドリック	1.420	4.625	2.4251	130	17.5	9.5	8.9
ローレル	1.175	3.889	2.3660	125	17.0	9.1	9.2
スカイライン	1.175	4.111	2.3198	125	17.0	9.1	9.2
レパード	1.220	3.900	2.2899	125	17.0	9.1	9.4
カペラ	1.030	3.450	2.3829	120	17.0	8.6	10.2
ギャランΣ	1.180	3.665	2.3645	110	16.7	8.5	10.6
ルーチェ	1.150	3.909	2.3829	120	17.0	8.6	?

x1:車体重量(1000kg), x2:減速比, x3:幅×高さ(m²), x4:最大出力(ps),

x5:最大トルク(kgm), x6:圧縮比, y:10モード走行(km/l)

早川 毅 著「回帰分析の基礎」朝倉書店(1986)より引用

print(matrix y) # 確認用

例4 多重回帰

```
#----データをリストへ格納して定義
# [1, 車体重量(1000kg),減速比,幅×高さ(m2),最大出力(ps),最大トルク(kgm),圧縮比]
# ^^最初の要素は1
data x list = [[ 1.0, 1.36 , 4.78 , 2.43 , 125 , 17.5 , 8.8 ]] # クラウン
data_x_list.append([ 1.0, 1.25 , 4.10 , 2.41 , 125 , 17.5 , 8.8 ] ) # マークII
data x list.append([1.0, 1.07, 3.21, 2.36, 120, 17.6, 8.7])#カムリ
data_x_list.append([ 1.0, 1.24 , 4.10 , 2.31 , 125 , 17.5 , 8.8 ] ) # ソアラ
data x list.append([1.0, 1.42, 4.63, 2.43, 130, 17.5, 9.5]) # セドリック
data x list.append([1.0, 1.18, 3.89, 2.37, 125, 17.0, 9.1])#ローレル
data_x_list.append([ 1.0, 1.18 , 4.11 , 2.32 , 125 , 17.0 , 9.1 ] ) # SKYLINE
data x list.append([1.0, 1.22, 3.90, 2.29, 125, 17.0, 9.1]) # レパード
data_x_list.append([ 1.0, 1.03 , 3.45 , 2.38 , 120 , 17.0 , 8.6 ] ) # カペラ
data x list.append([1.0, 1.18, 3.67, 2.36, 110, 16.7, 8.5]) # ギャランΣ
#------各車種の10モード走行燃費(km/L)
data_y_list = [[8.7],[9.5],[10.6],[9.2],[8.9],[9.2],[9.2],[9.4],[10.2],[10.6]]
#----データのリストから行列を生成
matrix x = np.matrix( data x list ) # 行列x生成
matrix y = np.matrix( data y list ) # 行列y生成
print( matrix x ) # 確認用
```

プログラムの続きは次スライド

前スライドのプログラムの続き

```
\hat{\mathbf{b}} = \left(\mathbf{X}^{Trans}\mathbf{X}\right)^{-1}\mathbf{X}^{Trans}\mathbf{y}
```

```
#-------行列xとyから回帰パラメータbを求める param_b = LA.inv(matrix_x.T @ matrix_x) @ matrix_x.T @ matrix_y # 逆行列 転置行列 @は行列の積 #------推定対象のルーチェの要目 query_x = np.matrix([[1.0, 1.15 , 3.91 , 2.38 , 120 , 17.0 , 8.6 ]]) print("query_x = ") print( query_x ) #-------回帰パラメータbと推定対象の要目から、推定対象のyを推定 estimated_y = query_x @ param_b #---行列の積 print("estimated_y = ") print( estimated_y ) # 推定値を画面に出力(ちなみに観測データでは9.8)
```

課題:多重回帰プログラム

> 課題のプログラムでは、この値を数字ではなく、データがさらに 追加されてもプログラムを変更せずに済むように他の行列(リ

スト)の要素の個数から自動的に与えるようにすること

【ヒント】

- 1) NxNの正方行列の単位行列は、numpy.eye(N)で与えられる。
- 2) x の平方根は numpy.sqrt(x) でも得られる

以上のプログラムを作成せよ.

プログラムの先頭行にコメント文で自分の氏名と学籍番号を入れておくこと #←この記号より左側の文字列はコメントになる

*データファイルdata.txtの読み込みにおいて、文字コードに関するエラーが解消しない場合、 データファイルの文字コードをSHIFT JISにして保存してみよ。

まとめ グラフ描画ライブラリ

グラフ描画ライブラリ matplotlib

数値計算ライブラリ numpy

ベクトルや行列の計算/多項式近似

第7回 レポート課題提出方法

課題のプログラムを

下記の課題提出用フォルダへ、課題の番号と提出者が分かるようにファイル名を以下のようにしてアップロードせよ第7回1TE19xxxZ名前.py

https://share.iii.kyushu-u.ac.jp/public/IRbwAAVITI5A2X4BE45t6TqQIE0UQSQUI5Bap_kZ_sjy

講義資料、および上記フォルダへのリンクは下記ホームページから http://sysplan.nams.kyushu-u.ac.jp/gen/edu/InfoProcess/2019/index.html

プログラムがエラーで動かないとき

エラーメッセージをよく読もう エラー箇所の行が表示されているはず(その1行前も怪しい)

文字が全角になっていないか確認すること カッコ()やクォーテーション"が全角になっていないか? 空白部分に全角の空白が紛れ込んでいないか?

インデントは「文字数」でそろえないとエラーになる